

道 一 1235

平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

秋田県知事 寺田 典城



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼ありましたこのことについて、別添のとおり回答します。

担当：建設交通部道路課
調整・企画管理班
TEL018-860-2489（直通）

今後の道路行政についての 意見・提案



平成20年10月
秋 田 県



①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

広い県土と豪雪地帯を抱える本県においては、冬期間の交通確保や災害時における復旧機材の迅速な搬入及び通勤圏の拡大など、住民生活を支える上で道路は必要不可欠な社会基盤である。特に、高速道路のネットワーク化は、広域的な交流促進による産業振興や物流の活性化など、地域経済の発展に大きく寄与することから、整備が急がれる。また、地域を活性化し、自立可能な地方生活圏を形成するためには、移動の速達性・定時性などに優れた高速道路の利活用を積極的に進めることが必要である。

経済活動の停滞が著しい地方において、道路の整備・保全を効率的に進めていくためには、財源の確保とともに、これまで以上に地方への配分を高めることが不可欠である。また、厳しい財政事情の中で、“造る”から“使いこなす”への転換が求められていることから、今後は既存ストックの再利用（維持・更新）が公共投資の中心となっていくものと考える。

物流コストの低減：広さの克服

- 県内の高速道路網は、秋田自動車道が東北自動車道に接続しているほかは、隣県と未接続となっている。県内外との活発な交流による産業の振興など、ネットワーク効果発現の観点から県境等の未着手区間について早期に事業化すべきである。
- 経済・生活の両面にわたり自動車交通に大きく依存している本県においては、地域経済の活性化を図る観点から、物流コストの軽減に直結する高速道路の低料金化と高速道路機能の有効活用を図るためのＩＣの追加設置が必要と考える。

安全・安心の向上

- 地震などの自然災害における代替路線確保や高度医療施設への迅速な搬送など住民の安全・安心の確保を図るため、高速道路等の整備を促進し、ネットワーク効果を早期に発現させる施策を優先すべきである。
- 少子高齢化が進む中で高齢者や子供が安心して利用できる歩行空間や通学路の整備が必要である。
- 日常生活圏の狹隘道路や急カーブなどの危険箇所を解消するため、生活道路の整備が必要である。
- 既存ストックが増大する中、本格的な維持・更新の時代を迎えている。したがって、橋梁耐震化や防災対策、既存ストックの長寿命化など、維持・更新事業の充実・強化を図ることが必要と考える。

雪に強いみちづくり

- 豪雪は道路機能を完全に麻痺させ、長期にわたり集落が孤立するなど、社会経済や住民生活に深刻な影響を与えることから、除雪費への国庫補助を拡充するとともに、必要額を安定的に確保すべきである。
- 安定的で持続可能な除雪体制を維持していくためには、除雪機械や除雪オペレーターの確保が必要であり、除雪機械の増強や固定的な人件費へ支援する制度を拡充すべきである。

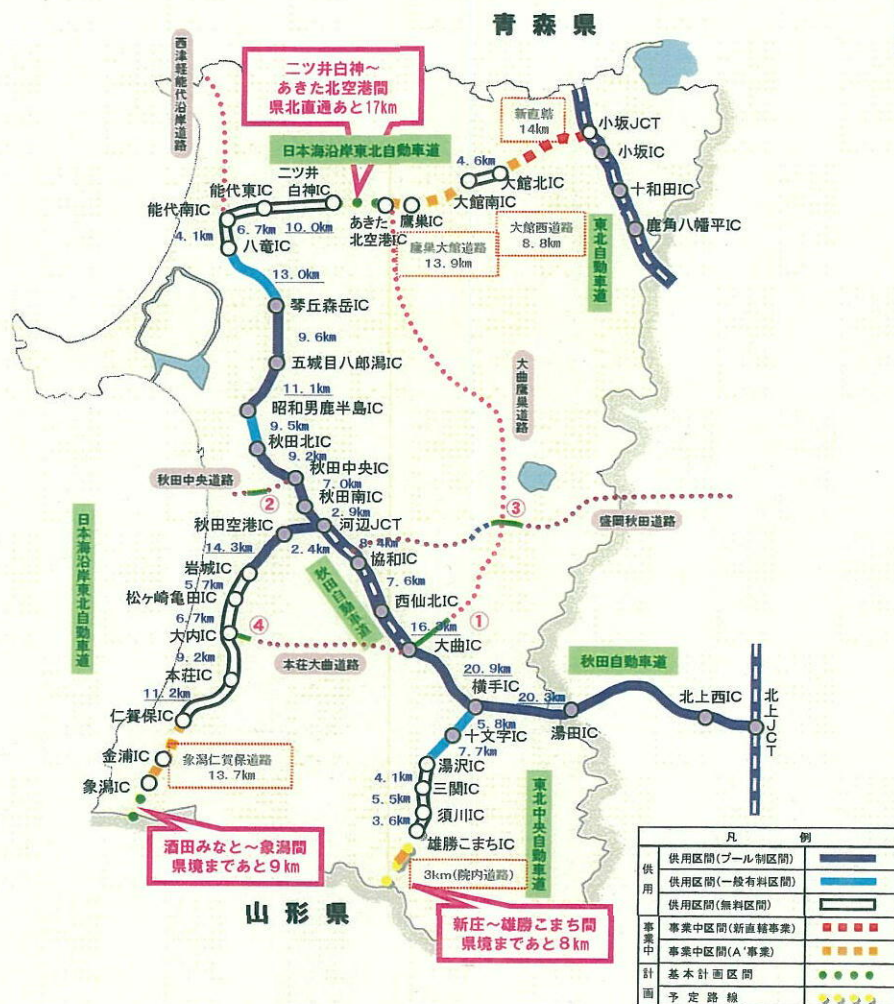
②-1 地域の現状と抱える課題

広さの克服

・秋田県内の高速道路ネットワークは、秋田自動車道が東北自動車道に接続しているほかは、隣県と未接続となっております。

▼秋田県内の高規格幹線道路網図

(H20. 9月末現在)

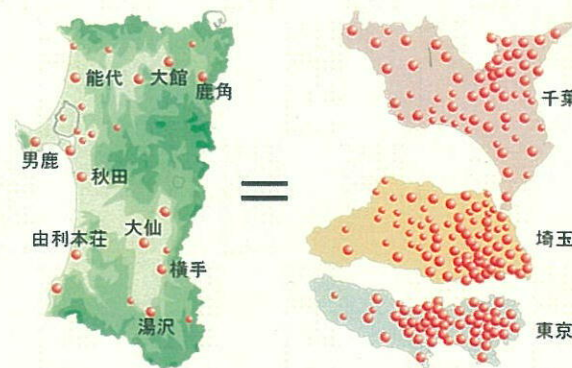


・秋田県は「東京+千葉+埼玉」に匹敵する面積(全国6位)に、1/9のまち(25/224)が存在します。

- ・広い県土のため、隣町に行くにも首都圏の3倍の移動距離を要します。

・日常生活のうえでも、また、経済活動を支えるためにも、自動車が必要不可欠なものとなっております。

秋田県:25市町村 1都2県:224市町村



▼市町村間距離



資料:(財)地方自治情報センター
※市町村数はH18.4.1現在

(%) ▼旅客・貨物輸送の自動車分担率(H17)



資料：旅客・貨物地域流動調査

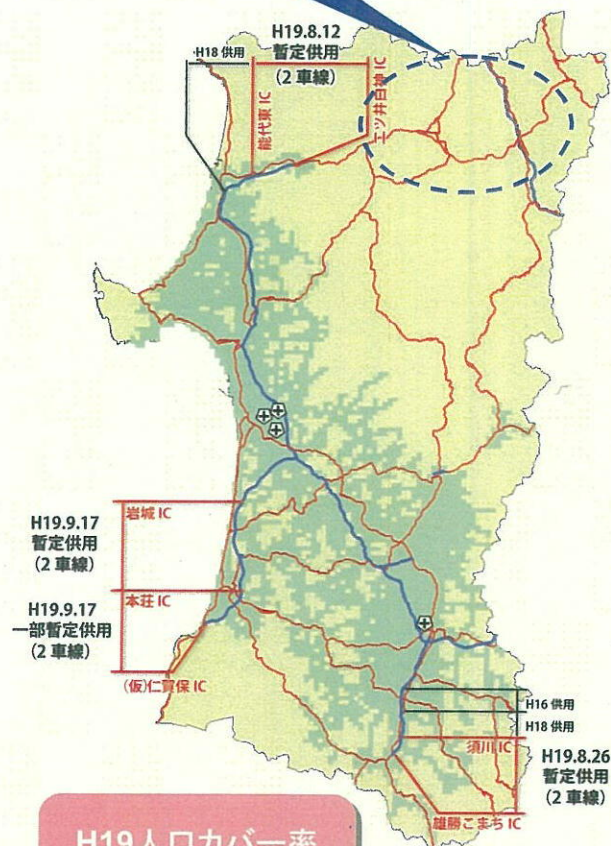
安全・安心の向上

・高速道路等が未整備のため、高度医療施設への迅速な搬送が困難な地域があります。

▼三次救急医療60分カバー圏(H19)



県北部が空白地域



H19人口カバー率
78%

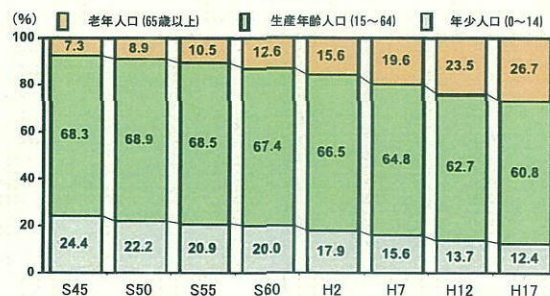
・少子高齢化が進む中で、高齢者や子供たちが安心して利用できる道路整備が必要です。

▼高齢化率



資料:総務省統計局資料(H18.10.1現在)
高齢化率=65歳以上人口/総人口

▼人口構成割合の変化



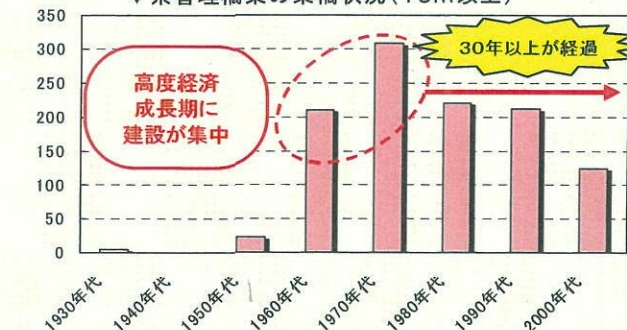
5割以上が高齢者

▼人口・交通事故死者における高齢者の割合(秋田県)



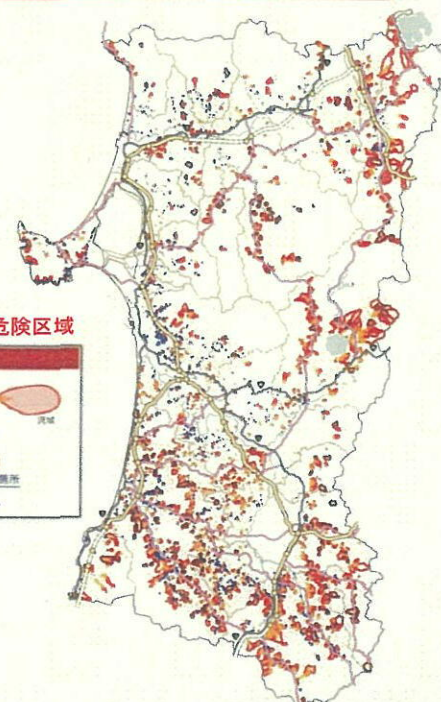
・本格的な維持・更新時代を迎えており、既存施設の長寿命化や防災対策を着実に進める必要があります。

▼県管理橋梁の架橋状況(15m以上)



道路沿線に危険箇所が多数存在!

土砂災害危険区域

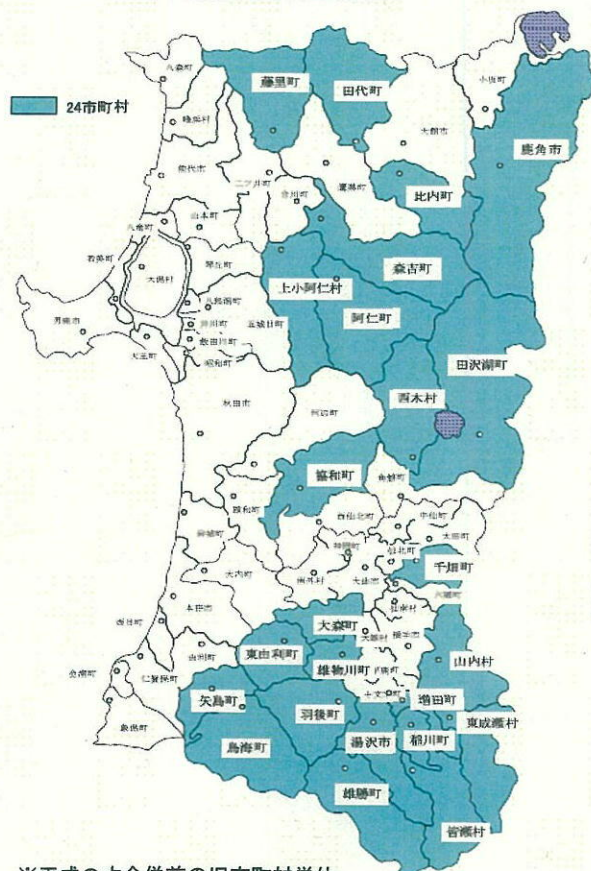


雪に強いみちづくり

- ・本県は全国でも有数の豪雪県で、冬期は積雪や凍結による事故の危険性が高まるほか、交通渋滞が発生しており、冬期交通の確保が必要不可欠であります。
- ・県境・郡境の峠部を中心に多くの冬期通行止め区間があり、移動に伴う時間的・経済的な損失が生じています。

県土全域が豪雪地帯
うち半分は特別豪雪地帯

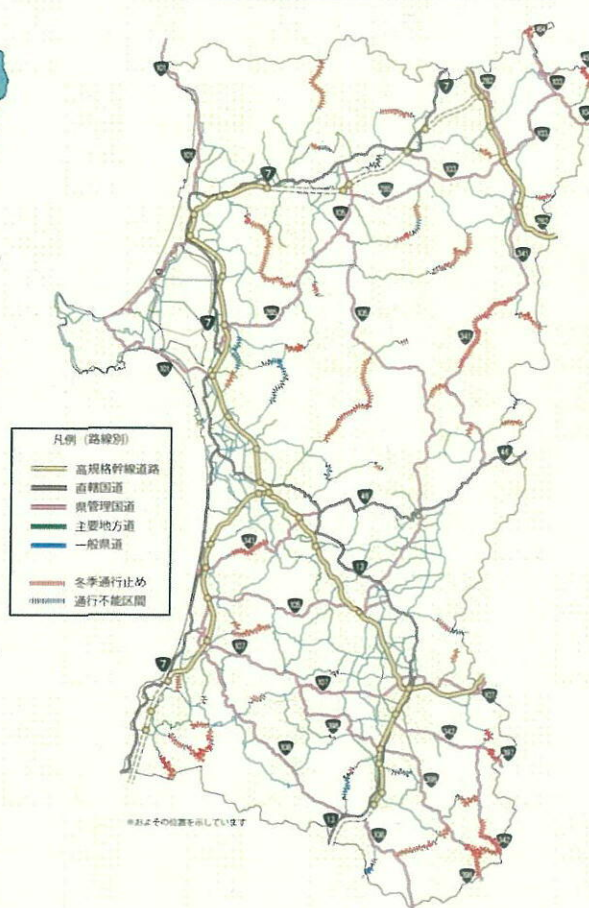
▼特別豪雪地帯指定状況



※平成の大合併前の旧市町村単位

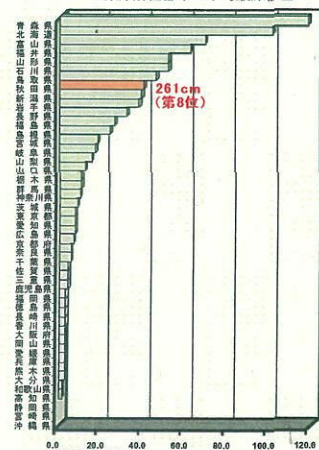
国道・県道の約12%が
冬期通行不能となります

▼秋田県管理道路の冬期通行止め区間

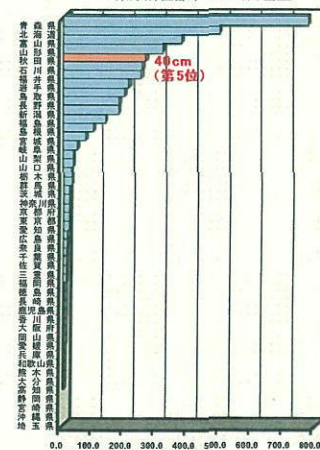


※およびその位置を示しています

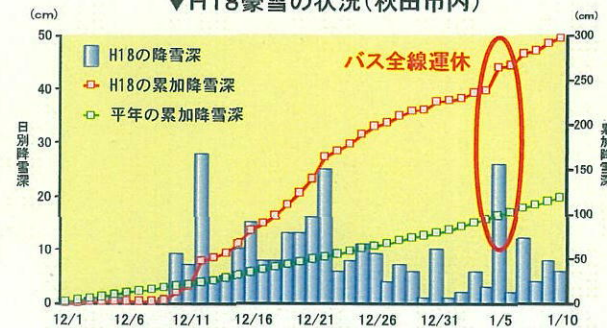
▼県庁所在都市の平均最深積雪



▼県庁所在都市の平均降雪量



▼H18豪雪の状況(秋田市内)



大雪で連日大渋滞の秋田市内！
バス停には運休を知らせる張り紙が・・・



②ー2地域の目指すべき将来像

「時と豊かに暮らす秋田」を基本理念とする「あきた21総合計画」は、県政運営の基本的指針となるもので、平成12年度から22年度までを計画期間としております。

本計画では、

- ①県内外との活発な交流による経済の活性化を図るための高速道路や国・県道による交通ネットワークの構築と利活用促進
 - ②少子高齢化が進むなかで県民の安全・安心を確保するための歩道整備や防災対策の推進
 - ③冬期交通を確保するための雪対策の充実
- などを道路施策として掲げております。

“後世代の負担軽減につながる道路整備”

『元気なふるさと秋田づくり』

●交流・連携と生活を支える交通基盤の整備

- ・高速交通ネットワークの整備
- ・地域間交流・連携を支える
交通ネットワークの整備

○高速道路ネットワークの整備促進

- 既存ネットワークの利活用促進
- ・簡易インターチェンジ等の設置
- ・高速道路インターチェンジへのアクセス強化

●快適で安全な生活を支える環境づくり

- ・災害に強い県土づくり
- ・交通安全や地域安全対策の推進
- ・雪と共に生きる秋田の創造

○安全かつ快適な歩行空間の確保

- 災害発生を未然に防ぐ防災対策の推進
- 既存施設の長寿命化への取組
- 円滑な冬期交通の確保

“造る”から
“使いこなす”への転換

1 国二制度の活用

- 地方における高速道路の弾力的な料金設定等
[路線単位の低料金化や無料化]

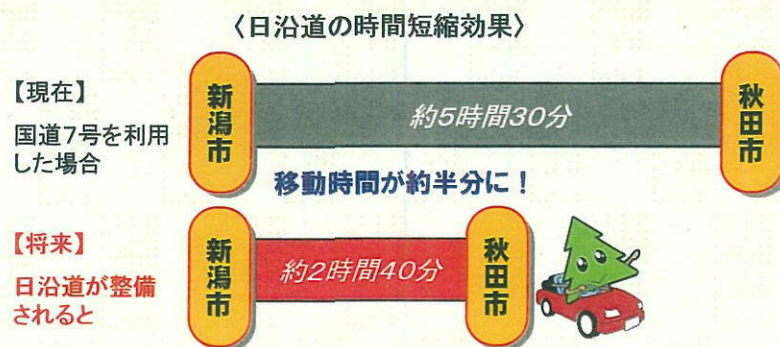
③道路施策の重点事項

様式④

秋田県

●広さの克服：高速道路ネットワークの整備と利活用促進

県内外との活発な交流による産業振興のほか、災害支援や高度医療施設への迅速な搬送など県民の安全・安心を確保するためにも、高速道路の整備及び利活用を促進し、ネットワーク効果を早期に発現させる必要があります。



●秋田自動車道が東北自動車道に接続された平成9年以降、高速道路からの利便性が高い観光地では、観光客が大幅に増加！

▼観光客数の推移



〈高速道路の利活用方策〉

▼簡易インターチェンジ



▼救急車退出路



●安全・安心の向上:歩行空間の確保や危険箇所の解消、既存施設の長寿命化

少子高齢化が進むなか、県民が安全かつ安心して利用できる道路環境となるよう、歩行空間の確保や、防災対策を着実に推進します。
また、本格的な維持・更新時代を迎えるため、既存施設の長寿命化への取組みを強化します。

〈歩行空間の確保:通学路の整備〉



〈防災対策:落石防止柵の設置〉



〈既存施設の長寿命化:老朽橋の補修〉



●雪につよいみちづくり:除排雪の充実と防雪施設の整備

冬期交通の利便性や安全性を確保するため、日常の除排雪の充実を図るとともに、堆雪幅確保や消融雪施設、防雪柵や雪崩防止柵等の計画的な整備を進めます。

〈日常の除排雪作業の充実〉



〈車道の堆雪幅確保〉



〈雪崩防止柵の設置〉

